

新年度開始に当たっての確認事項（心がまえ）

教育は「人づくり」であり、未来への投資です。

※ プロ意識…学校経営の重点化構想「目指す教師像」を変更しました

※ 先生方は教育者です。子どもの未来を創るという責任とやりがいのある仕事に携わっていることを、もう一度自覚してください。高学歴の保護者が増えています。教免許を所有している保護者もいます。

しかし、私たちは教育のプロです。教育を職業として給料をいただいている身です。教員免許状をもっているだけの人たちとはその点で違うということを、授業をはじめとして、児童指導等の様々な場面で示してください。「何度言ってもできない？」

◆全職員で同一歩調、ベクトル合わせ

学校として決めたことは、全職員で、例外なく、同一歩調で取り組んでください。誰かが、どこかで違う取組をしたとき、そこから綻びが生じます。ベクトル合わせをが大事です。

◆私の求める教師像

1 子どもが好きな教師

好きだから教師になったはずです。原点です。

2 社会人としての教師

子どもにとって、親の次に身近な大人が先生です。子どもの手本となるような「大人」であってください。提出物の締め切りは、基本、厳守は当たり前です。また、自分の仕事よりも全体の仕事を優先させることも、当たり前です。

3 温かな心をもつ教師

いつも温かいまなざしで子どもたちを見守ってあげてください。いつも子どもたちに寄り添って考えられる教師であってください。小学生という発達段階、それぞれの子どもたちの学年段階にふさわしい言葉遣いで指導してください。

4 進んで学ぶ教師

先生方は、子どもに「学べ」と言います。ならば、自身も学ぶこと。「教えること」を職業としている身なら、子ども以上に学び、本を読むこと。教師は子どもにとって「学びの手本」なくてはなりません。

5 判断する教師

先生方はそれぞれ御自身で判断して、主務者と連絡を取りながら行動してください。「どうしたらいいですか。」と聞きに来るのは、判断のない「丸投げ」です。最終的な決断は校長がします。「判断」と「決断」の違いを意識して取り組んでください。責任は校長がとります。

6 プロ意識をもつ教師

できないことを子どものせいにはしないこと。保護者のせいにはしないこと。子どもたちのできない理由を自分の指導以外に求めた瞬間に、指導はそこで終わりです。だとしたら、私たちは「教育のプロ」失格です。

※ 学級経営を進める上での判断基準

- (1) それは子どもを育てることになるか。
- (2) それは保護者の願いか。
- (3) それは地域や社会のニーズ（要請）か。
- (4) それはこれからの社会が進む方向を見通しているか。
- (5) それは、公教育として適正か。（法令や学習指導要領に照らして）

※ 子どものよりよい成長を願って

- (1) 褒めるばかりでいいのか？
→誰にでも、至らなさがあることも、教えていきたい。
- (2) 人と違うことを、「個性だから」と言って認めるだけでいいのか？
→人と違うことが、大部分の人に「すばらしい」と認められないことは、自分勝手なことでもあるということも、教えていきたい。
- (3) 好きなこと、得意なことだけに、夢中にさせていいのか？
→世の中には、不得意なこと、やりたくないこともでも、やらなければならないことがあることも、教えていきたい。
- (4) 夢や希望、憧れだけを、抱かせていていいのか？
→今、この瞬間からの努力が必要であることも、教えていきたい。
- (5) 子どもの主体性だけを、尊重していいのか？
→周りからの助言を素直に受入れることも、教えていきたい。